

作品を通じて交流深める

ふれあいのつどい・げんきげんき芸術祭

12月18日、ふれあいのつどい・げんきげんき芸術祭が市内や三股町の15団体が参加して、ウエルネス交流プラザで開催されました。障がい者団体が、日頃の文化・芸術活動の成果を発表して地域住民と交流することを目的に開催してきて今年で4回目。来場者らは展示されたおよそ230点の絵画や書道、手芸などを鑑賞したり、点字シールやペーパークラフトを体験したりして福祉への理解を深めました。又木事務局長は「これをきっかけに障がい者との交流を深めてほしい」と話していました。



走り初めして健康祈願

新春初詣健康マラソン大会

新年を祝い健康を祈願する新春初詣健康マラソン大会が1月2日、山之口町安楽寺周辺で開催されました。地元下富吉地区の人たちが、地域おこしを目的に始めたこの大会。今年も、例年を上回る約450人が参加しました。0歳から79歳までの参加者らは安楽寺を出発後、的野正八幡宮^{まどののしょうはちまんぐう}で今年1年の健康を祈願した後、熊野神社までの約4キロの行程で健脚を競いました。松下久子さん（立野町）は「毎年、この大会が楽しみ。初詣を兼ねて健康祈願ができた」と笑顔で話していました。



不景気を吹き飛ばせ!

平成24年取引業務始め式（初競り）

市民の台所、都城市公設地方卸売市場で1月5日、取引業務始め式が行われました。競りに先立ち長峯市長が「市民の台所として今年1年の発展と関係者の健康をお祈りします」とあいさつ。市場取引の活性化と安全を祈念する三本締め^{さんぼんじめ}に続き、市長の「さあ、なんぼ」の掛け声で初競りが始まり、競り人や仲買人の威勢のいい掛け声が響いていました。1年の景気を占う初競りでは福岡県産のタイに2万円、地元産のイチゴと白ネギにそれぞれ5,000円と1万円のご祝儀価格が付ききました。



夜空を焦がす火柱に無病息災を祈願

オネッコ

1年の無病息災を祈願するオネッコが市内各地で行われました。1月7日、下郡元地区では実行委員らが高さ約12メートルのやぐらを作製。数え年の7歳になる子どもや厄年の人たちがやぐらに点火すると瞬く間に炎が上がり、盆地の夜空を焦がしました。竹のはじける音が響く中、訪れた住民らは燃え盛る火柱を眺めたり、残り火でもちを焼いて食べたりして正月行事を楽しみました。実行委員長の白浜久男さん（郡元四丁目）は「今年も災害のない年になってほしい」と炎に向かって願っていました。



地域を守る消防団の雄姿

消防出初め式

市民の生命と財産を守るため地域で活動している消防団員らの消防出初め式が1月8日、沖水川市民緑地で行われました。団長を先頭に、消防団員約1,200人が行進を行った後、副知事や市長らが服装や規律動作を点検。その後、消防車98台による一斉放水の披露や団員表彰などが行われました。長年、団員である夫を支えた内助の功で県知事賞を受けた東加代子さん（山之口町）は「出勤しただけもなく帰って来ると安心します。長年活躍する夫を誇りに思います」と受賞を喜んでいました。



豊作祈願にモグラウツが来たど!

竹脇地区モグラ打ち

家内安全と五穀豊穡を祈願する新年の伝統行事「モグラ打ち」が1月8日、山田町竹脇地区で行われました。今年はその地区の子ども約30人と保護者らが参加して、200世帯ほどを訪問。子どもたちは「モグラウツが来たど〜アワ餅いらんど〜米餅くいやんせ」と歌いながら、稲わらで作った道具を使って、庭先をたたくモグラを追い払い、そのお礼にお菓子などをもらっていました。子どもも会長の木脇政博さんは「地域の絆を深める行事。今後も続けていきたい」と抱負を話していました。



都城で世界を巡る

ワールドフェスタinみやこのじょう

世界各国の文化や生活に触れたい見たりして交流を楽しむワールドフェスタが1月14日、ウエルネス交流プラザで開催されました。県内の外国語指導助手や国際交流員が出身地12カ国の文化などを紹介。デンマークのコナーでは、クリスマスツリー用にひも状の紙を組み合わせ星型の飾りを作製したほか、舞台では国際交流員による中国舞踏が披露され、訪れた家族連れなどが楽しんでいました。金丸紀さん（北原町）は「外国に行ってみたので興味深いものばかりだった」と話していました。



新春の都城路で健脚を競う

都城市成人記念ロードレース大会

1月15日、都城運動公園陸上競技場を発着とするコースで、成人記念ロードレース大会が開催されました。全21部門に541人のランナーが出走。2キロ、3キロ、5キロのコースに分かれて健脚を競いました。冷たい雨が降るあいにくの天候の中、選手らは応援に駆け付けた保護者らの熱い声援を受けながら、新春の都城路を駆け抜けました。小学3年の部で優勝した上玉利ひろゆき君（若葉町）は「初めてのレースで優勝できてうれしい。次の記録会でも1位を取りたい」と意気込みを見せていました。



人の風景



ボランティア功労者
厚生労働大臣表彰・感謝状を受賞

二見 八千子さん（右）
渡邊 辰喜さん（左）

福 祉の分野で、長年の功績が認められた人物に贈られる

厚生労働大臣表彰。今年度、17年間続けてきた独り暮らしの高齢者宅訪問活動や地域でのボランティア活動が認められ二見八千子さん（年見町）が、厚生労働大臣表彰を受賞しました。また、同じく独り暮らしの高齢者の見守り活動やふれあいいきいきサロン活動などが認められ、渡邊辰喜さん（郡元一丁目）に感謝状が贈られました。

二見さんは、祝吉地区の民生委員・児童委員として活躍。祝吉地区社会福祉協議会の事務局長になった現在も、地域で行われるさまざまなイベントや研修会の企画などに携わる傍ら、自らも民生委員・児童委員として、独り暮らしの高齢者宅訪問を続けています。

これまでの活動の中で「夫を亡くし、自宅にこもりがちになってきた女性が、何回も訪問を繰り返すうちに心を開いてくれ、近所の人たちとも心を通わすようになった。

てくれた」とボランティア活動のやりがいについて話す二見さん。

渡邊さんは、昭和58年から平成18年まで23年間にわたり郡元一丁目の自治公民館長を務め、独り暮らしの高齢者の見守り活動を続けてきました。公民館長を退いた現在も、祝吉地区社会福祉協議会の副会長として、各種研修会などに参加。これまでの経験を生かし、相談役として、また、助言者として積極的な協力を惜しみません。

二人は、住み慣れた地域でみんなが安全に安心して暮らせるよう、これからは高齢者ばかりではなく、子育て中の若い母親にも目を向け、孤独を感じる人を無くすることが大切と声をそろえます。

今後の目標として「相談する相手も無く一人で悩んだり、考え込んだりして引きこもりになる人が出ないように、これからもボランティア活動を続けながら、助け合いの輪を広げていきたい」と意気込みを話していました。

ジオパーク発掘調査隊



霧島ジオパーク
Kirishima Geopark

新燃岳の過去の噴火に伴う高原町の被害について見てみます。

▼享保の大噴火

昨年、活発な噴火活動をみせた新燃岳（1421メートル）。過去に何度も噴火を起こしていますが、とりわけ、享保元年（1716年）～2年（1717年）には大噴火を起こし、麓の集落（現在の高原町）にも大きな被害をもたらしました。

享保元年（1716年）2月18日から始まった噴火は凄まじく、その噴煙は3000メートルも上空に上りました。噴火はますます激しくなり、焼けた噴石による火災で、神徳院、錫杖院が焼失し、参拝者にも死傷者がました。現在の祇川地区、花堂地区の人家もほとんど焼失し、多くの避難者を出しました。

翌年の1月3日にも再び大噴火



平成23年2月3日 新燃岳上空



平成23年2月1日 高原町役場より

が起こり、再び花堂地区の人家が焼失。この噴火により周囲60四方に噴石が降り注ぎました。堆積した灰は深いところで170センチほどあり、各地で田畑に積もった灰の除去作業が行われました。

須木の滝（ままこ滝）

小林市須木にある「須木の滝（ままこ滝）」を紹介します。

小林市の北部にあたる須木地区には、照葉樹の森に抱かれた豊かな自然が数多く残されています。その中でも代表的な自然景観といえるのが「ままこ滝」です。

その昔、子を滝つぼに突き落とそうとした継母が、その弾みで共に落ち込んでしまったという悲話から「まま子滝」と名付けられました。

この滝は、中生層の粘板岩上、加久藤カルデラからの火砕流（約34万年前）でできた溶結凝灰岩の柱状節理にそって5条に分かれた滝です。かつては落差41メートル、滝つぼの深さ22メートルという勇壮な姿を誇っていました。

その後、昭和33年に綾南ダムが完成したことで小野湖が出現し水面が上昇。落差こそ小さくなったとはいえ、豊かな水をたたえる小野湖の湖面に、轟音とともに水しぶきをあげて落下する滝の姿はやはり絶景です。

ほくの巻はキリッ手だよ！

霧島ジオパーク



霧島ジオパーク
Kirishima Geopark

◎問い合わせ 経営戦略課

☎ 23-2115



大つり橋から見た「ままこ滝」

すきむらんど

ままこ滝は、小林市を代表する観光地「すきむらんど」にあり、その雄姿は、小野湖にかかる大つり橋から見る事ができます。この橋は、延長155メートル、幅員1.5メートルで、そこからの眺めは大迫力。また、すきむらんどは天然総ヒノキを使用した内湯や湿式サウナがある温泉施設「かじかの湯」、茅葺きの宿「栗の山里かるかや」などがあり、大自然の中で身も心も癒される観光施設となっています。